

幼稚園教育実習に関する意識調査2016

松尾 智 則

An Abstract From a Questionnaire about Teaching Practice at Kindergarten 2016

Tomonori Matsuo

(2017年11月22日受理)

はじめに

本稿は、筆者が幼児保育学科の幼稚園教育実習担当教員として継続的にアンケート調査を行い、その概要を『幼稚園教育実習に関する意識調査』^(注1)、『幼稚園教育実習に関する意識調査2013-2015』^(注2)として投稿した本学科学生の教育実習についての意識と実態についての第3稿である。最初の論文(以下「第1前稿」とする)では、1993年から2003年までの11年間の推移を明らかにした。次の論文(以下「第2前稿」とする)では、その後幼稚園教育実習担当教員の職務を離れていたために中断していたが、2013年から再度担当者となったために再開したアンケートの結果について第1稿前稿との比較を加えつつ明らかにした。

平成28年度の幼児保育学科の幼稚園教諭養成のための幼稚園教育実習の体制は第2稿で紹介した状況と同様で変化はない^(注3)。

アンケートの項目も第2稿で取り上げた項目を踏襲しているが、第2項の論文作成過程で明らかになった問題点の究明に早急に対応するために、アンケート実施直前に若干の手直しを行った。大幅な質問項目等の変更は平成29年度から実施している。変更部分は、本稿の中で述べる。本稿では継続的調査としての教育実習の各項目に関する系時的变化の最新状況の報告と分析を行うと共に、第2稿で明らかにした指導実習の実態をより詳細にすると共に、その問題点について明らかにしている。

調査方法

本稿で使用したアンケートは、幼稚園教諭免許取得を目指して「幼稚園教育実習」及び「幼稚園教育実習研究」を履修している全学生を対象としている。アンケートの回答形式は、選択肢形式、度数記述形式(新規追加)、自由記述形式を併用した。実施時期は2年次の「幼稚園教育実習研究実習」の事前事後指導科目の最終回(15回目の授業)である。4クラスをクラス別に実施しているため、実施日は2016年11月29日と12月7日に分散している。なお、実施したアンケートは本論文末に掲載している。

調査対象者

このアンケートは全ての幼稚園教育実習関係の活動の最後の活動として実施しているため、年度途中で幼稚園免許取得や幼稚園教育実習の履修を断念した学生はアンケート対象者から除外されることになる。有効回答数は209人(回収率99.5%)である。なお、幼児保育学科は女子学生が多く、男子学生は約1.4%程度であるため統計処理に適さないので分析において男女差は対象としない。

結果と考察

(1) 学生の希望進路(図表1)

調査方法で示しているようにアンケートの実施時期が11月下旬から12月上旬であり、まだ進路未決定の者も

別刷請求先：松尾智則，中村学園大学短期大学部幼児保育学科，〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1

E-mail：tmatsuo@nakamura-u.ac.jp

^{注1} 第1稿：『幼稚園教育実習に関する意識調査』松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第37号 2005 pp.47-52 ※本論文の各図表には参考として2003年のデータを加えている。

^{注2} 第2稿：『幼稚園教育実習に関する意識調査2013-2015』松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第49号 2017 pp.57-63 ※本論文の各図表には参考として2013-2015年のデータを加えている。

^{注3} 前掲『幼稚園教育実習に関する意識調査2013-2015』p57 113

いるために決定及び希望を合算した結果となっている。内訳は図表1の通りであるが、専門職（幼稚園・保育園・こども園・施設）就職率は合算すると、94.5%となり、第2稿で示したように2000年頃からの傾向は維持されている。また、第2稿で就職先として保育所の優位が固定化していると明らかにしたが今回のアンケートでも保育所の優位は継続していたが、その差は縮まっていた。

(2) 実習園の選択（図表2、図表3）

「実習する幼稚園を決める時期」、「実習する幼稚園の決め方」については図表2と図表3に示しているが第2稿で示した結果とほぼ同様であった。従って、学生の希望としては、「実習する幼稚園を決める時期」は「もっと遅いほうがいい」（55.5%）が過半数を占めているが、他の養成校の動向との兼ね合いから前学期幼稚園教育実習の内諾依頼期間を早めた経緯もあり、時期を繰り下げるとは実習園確保の観点から学生の不利益となるため難しい。また、後学期幼稚園教育実習の内諾依頼期間についても、春季休業中としているものを2年生前学期に移行したとしても実習先確保の観点から1回目の幼稚園教育実習後の設定はできず、結果として実習体験を踏まえた後学期幼稚園教育実習先決定という状況は作りがたい。従って、「実習する幼稚園を決める時期」を「もっと遅いほうがいい」という学生の意見への対応策としては幼稚園教育実習に関する情報提供と意識付けの強化が課題となるであろう。実習園の選び方については「今のまま自分で選ぶのがいい」（97.1%）となっており、変更の必要はないと思われる。

(3) 事前事後指導への評価（図表4、図表5）

筆者が担当する「幼稚園教育実習研究」（幼稚園教育

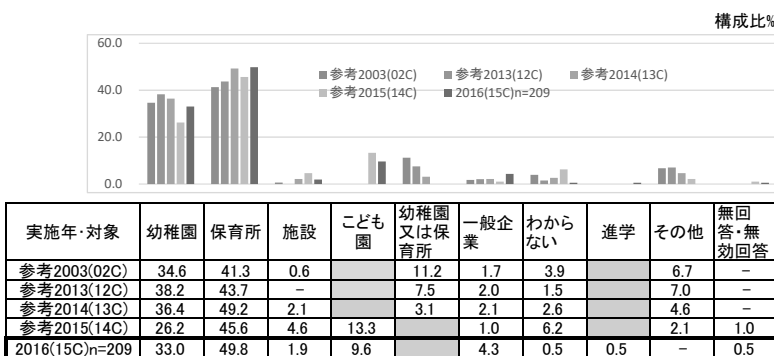
実習の事前事後指導科目）の具体的内容については第2稿に記しており^(注4)、第3稿の時期においても基本的な変更点はない。評価については第1稿で次第に評価が向上していることを報告したが、担当を再開した8年後からは第1稿の時期と比べて低下していたことを第2稿で報告していた。今回は、「役に立った」では第1稿の最終時期に10.5ポイント及ばないが、『役に立った』と『少しは役に立った』のプラス評価の合算では第1稿の最終時期を0.8ポイント上回っている。今後は更に授業を充実し評価の向上に努めたい。

役に立った内容については、「保育者としての心構え・役割に関する知識」（39.7%）、「保育者としての心構え・役割に関する知識」（47.8%）、「社会人としての心構えと行動に関する知識」（15.3%）、「手遊びのビデオとプリント」（34.9%）が第2稿の時期と比べて評価が向上しているが第1稿の最終時期には及んでいないので更に改善が必要であろう。気になる点は自学自習の資料となる報告会での「友達の報告」（33.3%）、「先輩の作品集」（84.7%）、「先輩の実習記録」（64.6%）が低下傾向にあることである。特に「先輩の作品集」と「先輩の実習記録」は授業時間外の学習を促すツールとして学生に配布しているので評価が低下しているということは両資料を活用していない学生が漸増していることが予想される。対応策として平成29年度からは「先輩の作品集」を対象として投票を行うことを課題とすることで熟読を促した。

(4) 教育実習の適応状況（図表6、図表7）

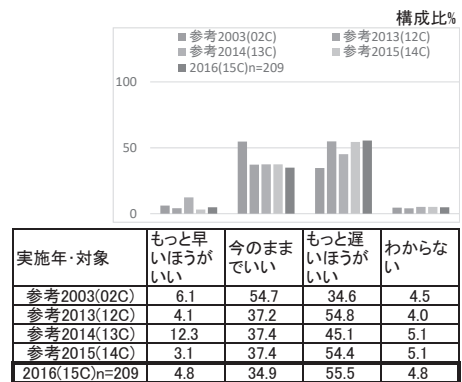
ここでは教育実習への適応度を好感度と健康の2つの要素を指標にして取り上げる。教育実習が「楽しかった」と評価した者は前学期の教育実習が62.7%、後学期が72.7%で平成27年度からは改善しているが概ね第

図表1. 学生の進路（決定・希望）属性



※ 設問『あなたの就職先(未定者は希望)はどこですか。当てはまる番号を一つ選んでください。』
 ※ 2015から選択肢「こども園」新設、「幼稚園又は保育園」廃止
 ※ 2016から選択肢「進学」新設

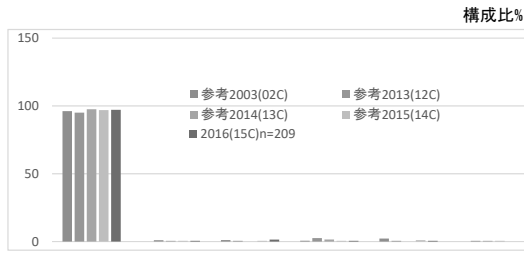
図表2. 実習園を決める時期



※ 設問『実習する幼稚園を決める時期についてどう思いましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

注4 同上 p59 図表4

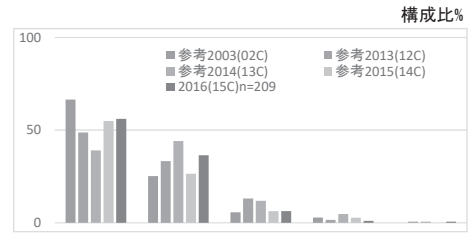
図表3. 実習園の選び方



実施年・対象	今のまま自分で選ぶのかい	大学で決めてほしい	付属幼稚園で実習したい	わからない	その他	無回答・無効回答
参考2003(02C)	96.1	-	1.1	0.6	2.2	-
参考2013(12C)	95.0	1.0	0.5	2.5	0.5	-
参考2014(13C)	97.5	0.5	-	1.5	-	0.5
参考2015(14C)	96.9	0.5	0.5	0.5	1.0	0.5
2016(15C)n=209	97.1	0.5	1.4	0.5	0.5	-

※ 設問『実習する幼稚園の選び方についてどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

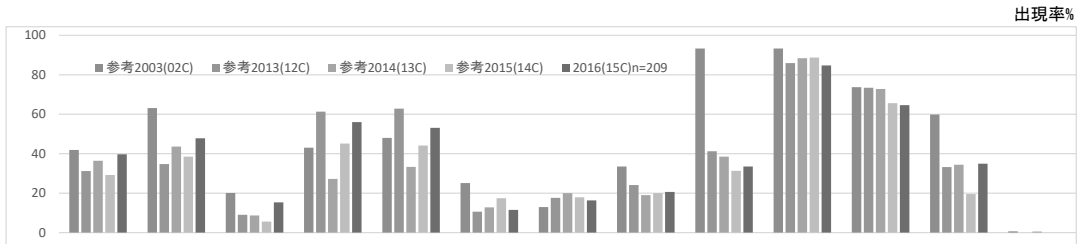
図表4. 幼稚園教育実習研究の効果



実施年・対象	役に立った	少しは役に立った	わからない	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
参考2003(02C)	66.5	25.1	5.6	2.8	-
参考2013(12C)	48.7	33.2	13.1	1.5	0.5
参考2014(13C)	39.0	44.1	11.8	4.6	0.5
参考2015(14C)	54.9	26.4	6.2	2.6	-
2016(15C)n=209	56.0	36.4	6.2	1.0	0.5

※ 設問『実習する幼稚園の選び方についてどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

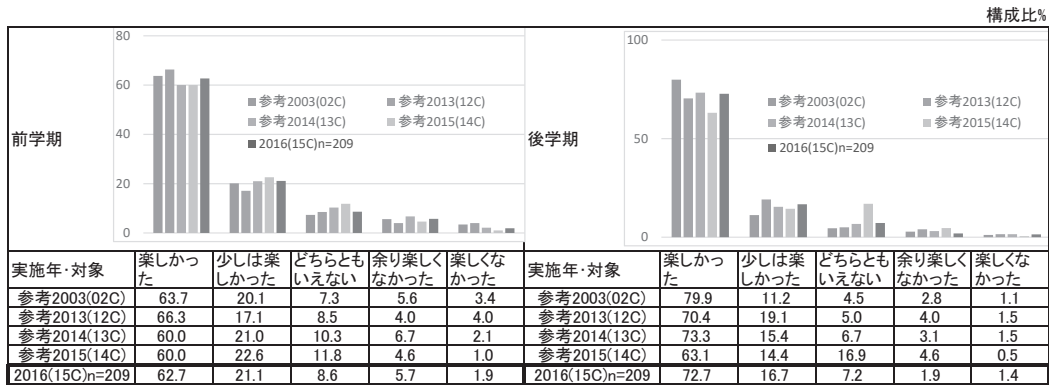
図表5. 幼稚園教育実習研究で役に立ったこと



実施年・対象	保育者としての心構え・役割に関する知識	実習生としての心構え・役割に関する知識	社会人としての心構えと行動に関する知識	指導案の書き方	日誌の書き方	幼児指導の具体的な留意点	実習の流れについての見通し	事前準備についての知識	友達の報告	先輩の作品集	先輩の実習記録	手遊びのビデオとプリント	その他
参考2003(02C)	41.9	63.1	20.1	43	48	25.1	12.9	33.5	93.3	93.3	73.7	59.8	0.6
参考2013(12C)	31.2	34.7	9.0	61.3	62.8	10.6	17.6	24.1	41.2	85.9	73.4	33.2	-
参考2014(13C)	36.4	43.6	8.7	27.2	33.3	12.8	20.0	19.0	38.5	88.4	72.8	34.4	0.5
参考2015(14C)	29.2	38.5	5.6	45.1	44.1	17.4	17.9	20.0	31.3	88.7	65.6	19.5	-
2016(15C)n=209	39.7	47.8	15.3	56.0	53.1	11.5	16.3	20.6	33.5	84.7	64.6	34.9	0.0

※ 設問『幼稚園教育実習研究の授業の中で役に立ったのはどのところですか。当てはまる番号を 幾つでも選んでください。』

図表6. 実習の好感度



実施年・対象	楽しかった	少しは楽しかった	どちらともいえない	余り楽しかった	楽しなかった	実施年・対象	楽しかった	少しは楽しかった	どちらともいえない	余り楽しかった	楽しなかった
参考2003(02C)	63.7	20.1	7.3	5.6	3.4	参考2003(02C)	79.9	11.2	4.5	2.8	1.1
参考2013(12C)	66.3	17.1	8.5	4.0	4.0	参考2013(12C)	70.4	19.1	5.0	4.0	1.5
参考2014(13C)	60.0	21.0	10.3	6.7	2.1	参考2014(13C)	73.3	15.4	6.7	3.1	1.5
参考2015(14C)	60.0	22.6	11.8	4.6	1.0	参考2015(14C)	63.1	14.4	16.9	4.6	0.5
2016(15C)n=209	62.7	21.1	8.6	5.7	1.9	2016(15C)n=209	72.7	16.7	7.2	1.9	1.4

※ 設問『教育実習は楽しかったですか。前期と後期別々に当てはまる番号を一つ選んでください。』

2稿の時期と同等の結果がでている。また、1回目の前学期の教育実習より2回目の後学期の教育実習の方が10ポイント程度高いことも同様であった。

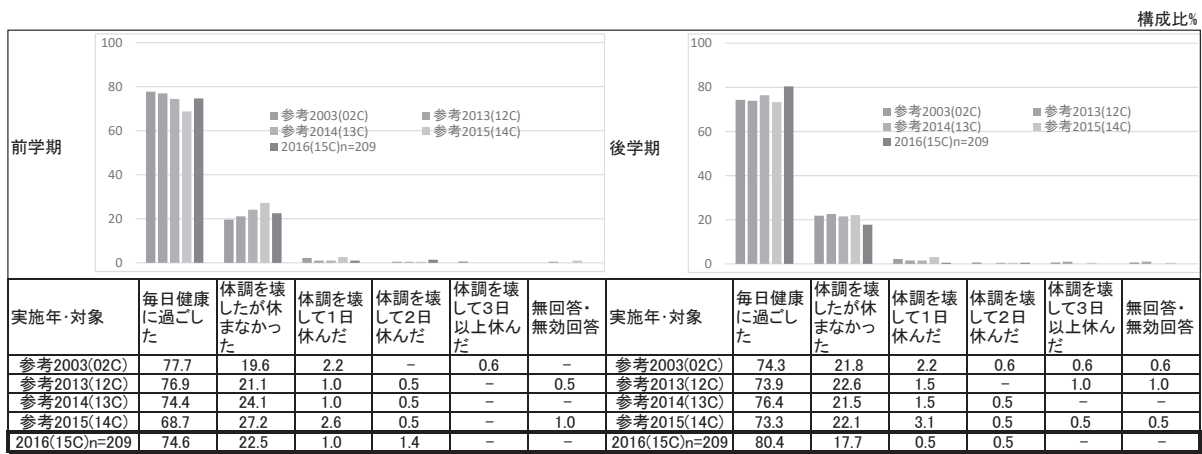
健康状態については「毎日健康に過ごした」と答えた比率が平成27年度からは改善している点では好感度と同じだが、前学期については第2稿の時期とほぼ同様の数値である一方後学期については80.4%で第1稿の最終時期を含めて最高の値となっている。

(5) 実習体験内容 (図表8)

教育実習は見学・観察・参加・指導に分類される活動で構成されるが、学生にとって指導実習は心理的にも物理的にも大きな課題であると共に、保育者としての成長のための重要な体験であることは言うまでもない。項目毎の出現率を図表8に示している。第2稿で触れたように全体としては各種の指導実習体験が低下している状況は本稿においても変化がなく続いていることが分かる。詳細を見ると「全日保育」や「半日保育」などの長時間の指導体験は更に減少しており、「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」や「主活動の部分だけの指導」

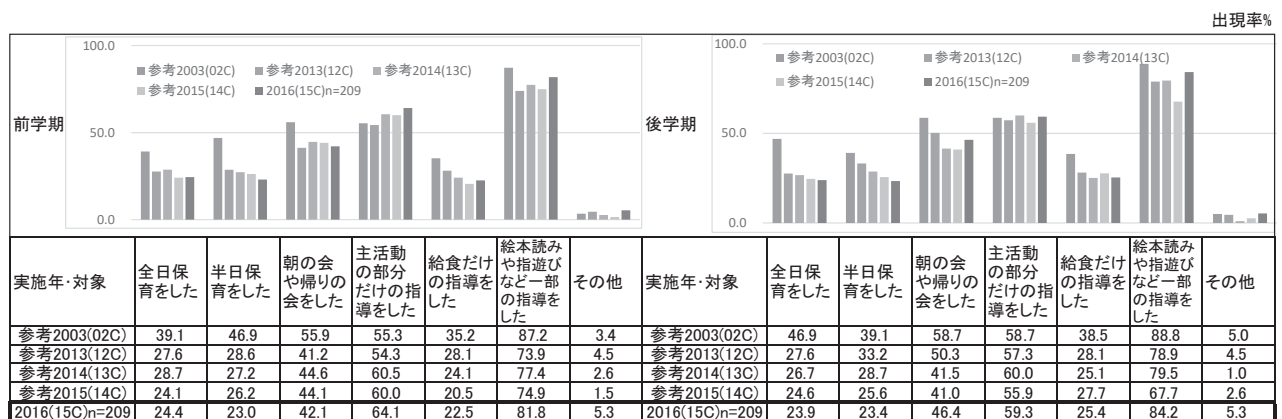
指導」は増加傾向にある。具体的には「全日保育」も「半日保育」も行っていない学生を再集計すると前学期教育実習で129名(61.7%)、後学期教育実習で127名(60.8%)に上っている。更に、2回の教育実習を通して「全日保育」も「半日保育」も行っていない学生は88名(42.1%)にも上っている。一方で2回の教育実習を通して「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」を体験していない学生は22名(10.5%)であるが、これに加えて「全日保育」、「半日保育」、「朝の会や帰りの会」「主活動の部分だけの指導」「給食だけの指導をした」の一部として含まれる可能性が高いので、大部分の学生が少なくとも前学期と後学期のどちらかの実習において体験していることが推測される。さらに、今回は第2稿での問題意識から実施回数を問うている。その際、不明確な記述のものについては、「数回→2回」、「5・6回→5回」のような方針で低位の数値にそろえて数値を補正した。これによると前学期においては、「全日保育」は実施した全員(51名)が1回のみ実施している。「半日保育」は実施した48名の内32名が1回(66.7%)、12名が2回(25.0%)で1・2回の実施が大多数を占

図表7. 実習時の健康状態



※ 設問「教育実習中の健康状態はどうか。前期と後期別々に当てはまる番号一つを選んでください。」

図表8. 実習体験内容



※ 設問「教育実習中に時間をもらって指導実習をしましたか。前期と後期別々に当てはまる番号を 幾つでも選んでください。」

めている。これに対して「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」は前学期に実施した全員（171名）のうち最も多いのが10回（33名）、次が12回（31名）で、10回以上の合計が70名に上っており、実施者の平均実施回数で集計すると7.1回となる。後学期では、実施した全員（176名）のうち最も多いのが12回（33名）、次が10回（27名）で、10回以上の合計が70名に上っており、実施者の平均実施回数で集計すると、7.1回となる。これに加えて「全日保育」、「半日保育」、「朝の会や帰りの会」、「給食指導」、「主活動指導」などの一部として「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」が挿入されることが想定されるので、総数としての「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」は更に増えることが容易に想像される。実際の保育者であれば必要に応じて同一内容を繰り返すこともありえるが、実習生の立場としてはそれはあまり想定できず、また、実習園の方針や保育内容との兼ね合いから学生にとって「絵本読みや指遊びなど」のレパートリーの確保と技能の習熟が教育実習において大きな部分を占めていることが想像される。

(6) 教育実習で勉強になったこと（図表9）

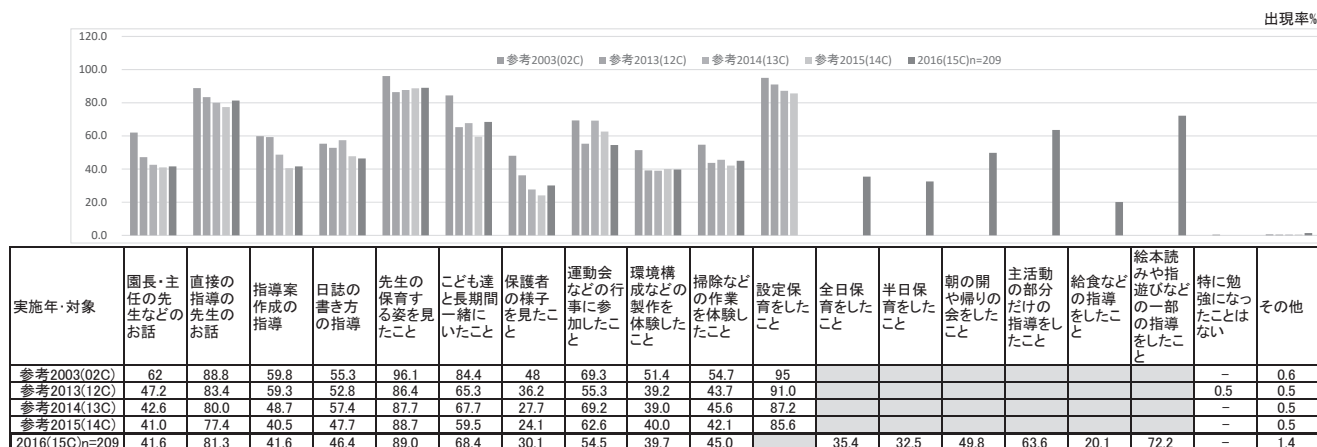
教育実習における各種体験に関する学生の評価を図表10に示している。今回から従来の項目に加えて、設定保育の内容を分解し、新規の項目を追加している。評価が高いのは受動的学習項目の中では「先生の保育する姿を見たこと」（89.0%）、「直接の指導の先生のお話」（81.3%）が突出している。能動的学習項目の中では「絵本読みや指遊びなどの一部の指導をしたこと（新規）」（72.2%）、「主活動の部分だけの指導をしたこと」（63.6%）、「運動会などの行事に参加したこと」（54.5%）が高い。指導体験は実習先の幼稚園の方針や事情によって実施の有無等がさまざまであるので、「全日保育」、「半日保育」、「朝の会や帰りの会」、「給

食指導」、「主活動指導」、「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」について体験した学生に絞ってその評価を見ると勉強になったとする者が、「全日保育」で73名（83.9%）、「半日保育」で61名（77.2%）、「朝の会や帰りの会」で98名（74.8%）、「主活動指導」で128名（74.8%）、「給食指導」で39名（47.6%）、「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」で139名（74.3%）であった。「給食指導」を除くと実施学生の評価は極めて高く、その中でも、一日の活動の複数の場面を含むことになる「全日保育」や「半日保育」の評価が特に高くなっている。つまり、指導実習場面として量的には上位を占め、更に増加傾向にある「主活動指導」や「絵本読みや指遊びなどの一部の指導」よりは量的には減少傾向にある「全日保育」や「半日保育」の方が学びは大きいことになる。

(7) 教育実習した幼稚園への不満

経験不足な学生のことであるので、そのまま正当な意見として取り上げることは問題があるが、次世代の保育者として若者の目から見た幼稚園の課題を知るために、「教育実習した幼稚園への不満」を自由記述で回答させた。全部で43件の回答があり、その中には実習園の問題ではないものもあったが、気になる点が2点あった。第1は園内での人間関係に関する記述である。「先生の実験がもう少し見たかった」、「先生方の仲があまり良くなかったこと」、「先生同士の人間関係は子どもたちにも影響すると思った。」などの記述があり、学生達が幼稚園の中の人間関係を敏感に感じていることが窺える。教育実習自体とは直接関係ない部分でもあり、保育職は激務でストレスも多いであろうことは理解できるが、学生の保育職志向性や就職後の早期離職にも影響する問題であり、養成校を含む保育業界を挙げて問題の解決に取り組む必要があるのではないだろうか。第2点は養成校と

図表9. 教育実習で勉強になったこと



※ 設問「教育実習はどんなことが勉強になりましたか。当てはまる番号を幾つでも選んでください。」
 ※ 2015から選択肢「全日保育」「半日保育」「浅野開や帰りの会」「主活動」「就職などの指導」「絵本読みや指遊びなど」子ども園「新規」、「設定保育」廃止

実習園にまたがる実習実施体制の不十分さから来る実習の揺らぎである。「設定保育等の日程が確定せず、予定が曖昧なまま実習になったこと。事前の打ち合わせでのクラスと異なり、書類を書き直さなくてはならなかったこと」、「いつ設定保育をさせて頂くのか日程が実習前にわからなかったこと」などの記述があった。現状では教育実習は幼稚園のご厚意の上に成り立ち、基本的部分以外は実習園の方針と環境に基づいて実施されている。更に、指導担当教員も常に実習指導の経験が豊富な者を充てるという訳には行かず、また、経験者であっても、実習指導担当者としての教育や研修を受けているわけではないのが現状である。今後この揺らぎを小さくするためには養成校と幼稚園（幼稚園団体を含む）の間で連携と情報共有を一層緊密にした幼稚園教育実習の内容についての共通理解と標準モデルの形成への努力が必要でないかと思われる。

(8) 実習訪問の必要性 (図表10、図表11)

第2稿で触れたように実習訪問については、幼児保育学科では福岡県内及び近郊の実習園には直接教員が訪問し、実習園との連絡調整と学生の面接指導を行っているが、遠隔地での実習に際してはゼミ担当教員が電話で同等の作業を行っている。しかし実際は電話当日の実習生の実習内容等により教員が学生と話せない事例が1割弱程度存在している。結果を図表11に示しているが、「しっかり話した」との評価が前学期(40.2%)と後学期(38.8%)共に、第2稿の時期より増加している。

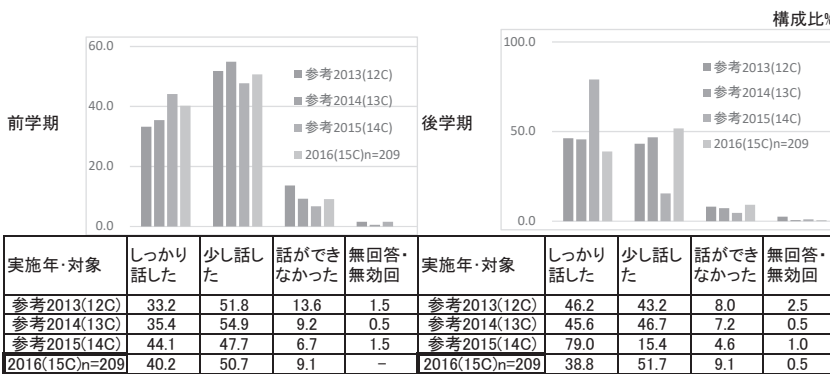
学生の実習訪問に対する評価は概ね第2稿の時期と同様で全体では「ある方がいい」とする者が80.4%であった。しかし、教員の訪問を受けた体験の有無によって評価が変わることが考えられる。2回とも訪問(電話を含む)があった学生(177名)では「ある方がいい」と評価した者が146名(82.5%)で全体より若干高

い評価をしている。更に、2回とも「しっかり話した」と認識している学生(53名)では92.5%が実習訪問が「ある方がいい」と回答している。また、どちらか一度でも「しっかり話した」と認識している学生(59名)も89.7%が実習訪問が「ある方がいい」と回答している。しかし、2回とも「少し話した」と認識している学生(79名)では、70.9%が実習訪問が「ある方がいい」と回答しているに留まっており、実習訪問の充実には直接訪問先の拡充と学生との面接場面の充実の両者が重要であることが分かる。電話訪問に関する自由記述では、全72件のうち、「実習の中ば位に来て頂いて励みになった」、「先生が来て下さると安心した気持ちになりました」など「安心・励み・喜び」を表現しているものが49件、「電話訪問だったので全く話しをしていません。できれば県外にも来てほしかった」、「電話のみであればなくてもよいと思った」など電話訪問への不満や問題点の指摘が10件、「先生が訪問に来る日を教えてほしい」など訪問情報要求が5件、「私たちと話すより園の先生と話しをしていच्छる先生がいてそれは少し違う気がしました」、「子どもたちと話しているときにあたふたしてしまった」など面接状況に対する不満が4件で、約7割が肯定的なコメントで、不満も大半が電話訪問に関することである。学生満足度を上げ、学生の実習支援のために実習訪問の拡充に向けた態勢改善が更に望まれると考えられる。

おわりに

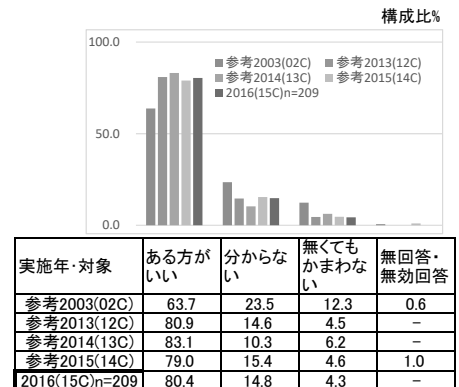
今回は2016年の幼児保育学科2年生の幼稚園教育実習に関する意識と行動の概要を第1稿(1993-2003)及び第2稿(2013-2015)と比較しつつ分析した。アンケートの項目に若干の修正を加えて実施することで第2稿での疑念がより鮮明になったように考える。それら

図表10. 実習訪問の状況



※ 設問『大学から実習訪問に先生どのくらい話をしましたか。前期と後期別々に当てはまる番号を一つ選んでください。※電話を含む』

図表11. 実習訪問の必要性



※ 設問『実習訪問の制度をどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

を含め結果を整理すると以下の通りとなる。

- ① 幼保系への就職志向性の高さは継続しており、保育者養成校としての責務を十分果たしている。
- ② 実習園を決める時期については『もっと遅いほうがいい』の優位が継続しているが、状況的に学生の希望に沿うことは難しいので、その代わりに学生の意識付けや情報提供により一層の努力をする必要がある。また、実習園の選び方は現状のままでも特に問題ないようである。
- ③ 事前事後指導への評価では『役に立った』と『少しは役に立った』の合計では最高値を示した2003年を上回ることができたが、『役に立った』という回答単独ではまだ2003年と10.5ポイントの差があるので引き続き授業内容の各項目の改善の必要がある。
- ④ 教育実習の適応状況については、好感度と健康状態共に、特に変動はない。
- ⑤ 実習体験内容については『全日保育』『半日保育』体験が減少し『主活動の部分だけの指導』『絵本読みや指遊びなどの一部の指導』が増加しているのは第2稿で示したが、2016年度においても同様であった。かつ『絵本読みや指遊びなどの一部の指導』の実施回数を実施した学生に限定して集計すると、平均7.1回となり、学生が絵本や指遊びのレパートリーの確保に大きな関心を向ける背景が明らかになった。しかし、一方で指導実習体験の中では『全日保育』が勉強になったという点では一番評価が高い。次いで『半日保育』となっている。そして、この評価が高い『全日保育』『半日保育』を前学期と後学期の2回の実習を通じて経験していない学生が42.1%もいること、またその比率は近年増加傾向にあることは幼稚園教育実習のあり方として大きな問題である。これらのデータを幼稚園側に開示し、共通理解を得て、実習の改善を行うことが重要である。この状況への対応として平成29年度には福岡県市立幼稚園振興協会と連携を開始する予定である。
- ⑥ また、学生の自由記述の中で見られる幼稚園内の人間関係や実習実施状況の揺らぎについても養成校単独で対応できることでなく幼稚園との連携が必要になってくることであるので前項同様に取り組みたい。
- ⑦ 実習訪問についてはその効果を上げるためには学生の要望に対応して直接訪問先を拡大するだけでなく、面談内容等の充実も必要であることが明らかになった。

近年幼児教育に重大な関心を示して国際的な活動を

行っているOECDにおいても『Starting Strong III』において「子どもの学習と発達の向上には品質基準が不可欠」としてその5大要素の一つとして『資格・訓練・労働条件の改善』を取り上げて、保育者の資格や初期教育等を問題としている^(注5)。本学科においても国際的にも求められている質の高い保育者養成を推進する観点から以上の結果を踏まえて今後は更に詳細な調査を行い、幼稚園との協力関係を築きつつより質の高い幼稚園教諭養成に努めたい。

注5 “Starting Strong III: A Quality Toolbox for Early Childhood Education and Care” OECD Publishing 2012

幼稚園教育実習に関するアンケート(15C)

このアンケートは幼稚園教育実習やその準備に関するみなさんの体験や意見・感想などを聞くものです。成績には一切関係しません。また回答内容は統計的に処理して公表しますので、個人情報が増えることはありませんので、自由に答えてください。

(1)あなたの就職先(未定者は希望)はどこですか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 幼稚園 2 保育所 3 こども園 4 施設
5 一般企業 6 わからない 7 進学 8 その他()

[付属宅幼幼稚園見学会について]

(2)見学会は楽しかったですか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 楽しかった 2 まあまあ 3 余り楽しくなかった 4 行っていない

(3)見学会を体験して以下のことを感じるようになりましたか。当てはまる番号を幾つでも選んでください。

- 1 2年での外部実習が楽しみになった。
2 2年での外部実習を不安に思うようになった。
3 勉強の必要性を強く感じるようになった。
具体的()
4 体力の不足を感じた。
5 保育者になることを考え直すようになった。
6 ますます保育者になりたくなかった。
7 特に感じることはなかった。

(4)見学会を体験して良かったですか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 とても良かった。
2 良かった。
3 わからない。
4 余り役に立たなかった。
5 無くてかまわない。

(5)見学会の時期や内容などを変更するとしたらどうしたらいいと思いますか。

自由に書いてください。

[希望調査・内諾について]

(6)実習する幼稚園を決める時期についてどう思いましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 もっと早い方がいい。
2 今のままでいい。
3 もっと遅い方がいい。
4 わからない。

(7)実習する幼稚園の選び方についてどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 今のまま自分で選ぶのがいい。
2 大学で決めてほしい。
3 付属幼稚園で実習したい。
4 わからない。
5 その他(具体的に)

[幼稚園教育実習研究について]

(8)幼稚園教育実習研究の授業は実習に役に立ちましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 役に立った。
2 少しは役に立った。
3 わからない。
4 余り役に立たなかった。
5 役に立たなかった。

(9)幼稚園教育実習研究の授業の中で役に立ったのはどんなところですか。当てはまる番号を幾つでも選んでください。

- 1 保育者としての心構え・役割に関する知識
2 実習生としての心構え・役割に関する知識
3 社会人としての心構えと行動に関する知識
4 指導案の書き方
5 日誌の書き方
6 幼児指導の具体的な留意点
7 実習の流れについての見通し
8 事前準備についての知識
9 友達の情報
10 先輩の作品集
11 先輩の実習記録
12 手遊びのビデオとプリント
13 その他(具体的に)

(10)教育実習研究の授業の中でほかにやって欲しいことがありましたか。自由に書いてください。

※裏面も記入してください。

[幼稚園教育実習について]

(11)教育実習は楽しかったですか。前期と後期別々に当てはまる番号を一つ選んでください。

①前学期実習

②後学期実習

- 1 楽しかった
2 少しは楽しかった。
3 どちらともいえない。
4 余り楽しくなかった。
5 楽しくなかった
理由()
1 楽しかった
2 少しは楽しかった。
3 どちらともいえない。
4 余り楽しくなかった。
5 楽しくなかった
理由()

(12)教育実習中の健康状態はどうでしたか。前期と後期別々に当てはまる番号を一つ選んでください。

①前学期実習

②後学期実習

- 1 毎日健康に過ごした
2 体調を壊したが休まなかった
3 体調を壊して1日休んだ。
4 体調を壊して2日休んだ。
5 体調を壊して3日以上休んだ。
1 毎日健康に過ごした
2 体調を壊したが休まなかった
3 体調を壊して1日休んだ。
4 体調を壊して2日休んだ。
5 体調を壊して3日以上休んだ。

(13)教育実習中に時間をもらって指導実習をしましたか。前期と後期別々に当てはまる番号を幾つでも、選んで回数(※回数が曖昧な場合は記憶の範囲)も記入してください。

①前学期実習

②後学期実習

- 1 全日保育をした(回数 回)
2 半日保育をした(回数 回)
3 朝の会や帰りの会をした(回数 回)
4 主活動の部分だけの指導をした(回数 回)
5 給食だけの指導をした(回数 回)
6 絵本読みや指遊びなど一部の指導をした(回数 回)
7 その他(具体的に)
1 全日保育をした(回数 回)
2 半日保育をした(回数 回)
3 朝の会や帰りの会をした(回数 回)
4 主活動の部分だけの指導をした(回数 回)
5 給食だけの指導をした(回数 回)
6 絵本読みや指遊びなど一部の指導をした(回数 回)
7 その他(具体的に)

(14)教育実習はどんなことが勉強になりましたか。当てはまる番号を幾つでも選んでください。

- 1 園長・主任の先生などのお話
2 直接の指導の先生のお話
3 指導案作成の指導
4 日誌の書き方の指導
5 先生の保育する姿を見たこと
6 こども達と長期間一緒にいたこと
7 保護者の様子を見たこと
8 運動会などの行事に参加したこと
9 環境構成などの製作を体験したこと

- 10 掃除などの作業を体験したこと
11 全日保育をしたこと
12 半日保育をしたこと
13 朝の会や帰りの会をしたこと
14 主活動の部分だけの指導をした
15 給食だけの指導をしたこと
16 絵本読みや指遊びなど一部の指導を短時間したこと
17 特に勉強になったことはない
18 その他
具体的に()

(15)教育実習をした幼稚園で不満に感じたことを自由に書いてください。

[実習訪問について]

(16)大学から実習訪問に先生どのくらい話をしましたか。前期と後期別々に当てはまる番号を一つ選んでください。※電話を含む

- ①前学期実習 1 しっかり話した 2 少し話した 3 話ができなかった
②後学期実習 1 しっかり話した 2 少し話した 3 話ができなかった

(17)実習訪問の制度をどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。

- 1 ある方がいい 2 分からない 3 無くてかまわない

(18)その他、実習訪問について感じたことを自由に書いてください。

[幼児教育科について]

(19)幼稚園教育実習のために授業、施設、教材、資料等で大学に改善を希望する点があれば、具体的に書いてください。

(20)幼稚園教育実習研究、幼稚園教育実習関係の各種オリエンテーション)のやり方や内容について必ず一つ以上不満な点を書いてください。

ご協力ありがとうございました。